

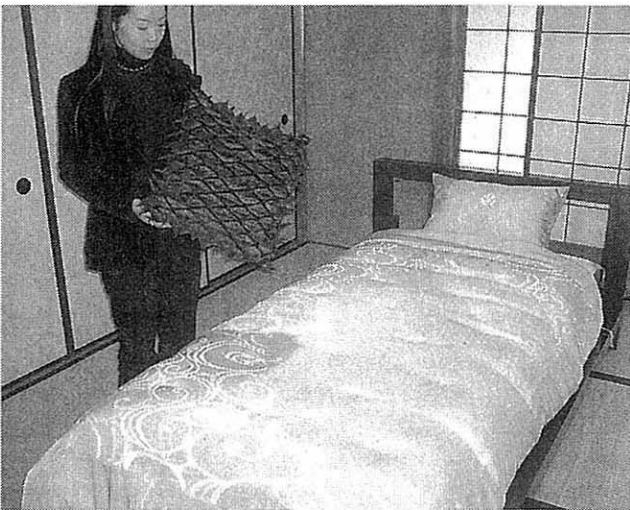
# 伝統技術で生活用品

京都商議所ブランド育成支援

パリへ出展 照明やベッド

京の会社共同開発

国の「JAPANブランド育成支援事業」を進めている京都商工会議所は十七日、京都の繊維やデザイン会社が共同開発した生活用品五点を参画事業者の繊維卸尾尾商店（京都市上京区）で発表した。来年一月にパリで開かれる室内製品の国際展示会「メゾン・エ・オブジェ」などに出席し、新規販路の開拓を目指す。



JAPANブランド育成事業で室町問屋や染色会社が開発したベッドとクッション（京都市上京区・細尾商店）

京都の伝統産業を活性化するため、伝統技術にデザイン力を融合し、現代生活に合わせた製品を開発する。京商は夏の国の事業採択を受け「Kyoto Premium」として取り組んだ。

参画したのは室町問屋の千総（中京区）、アピタ建築デザイン事務所（同）など六社。絹を素材に製造技術やデザインを出し合って作った。

開発したのは西陣織の生地を織機のイメージでひし置きを取り付けた大型のいすや流水模様の京

友禪の布団を使ったベッド、特殊な絞り染め技術で生地に凹凸感を出したクッションと照明装置など。

パリの展示会は繊維商社や百貨店など二千八百社の購買担当者ら約七万五千人が来場見込み。来年二月には東京でも展示会を計画している。

育成支援事業のプロデューサーを務めた伊藤忠ファッションシステム（大阪市中央区）の江口隆さんは「現代生活に合わせて京都の伝統技術に新しい風を吹き込んだ。パリでは好反応が期待できる」と話している。